

## 「論語」の教えを学び、自分の生き方に活かそう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 皆さんの中にはご承知の方もいらっしゃると思いますが、毎年 11 月の第 3 木曜日はユネスコの「世界哲学の日」です。ユネスコ(UNESCO)は国連の専門機関の 1 つで、国連教育科学文化機関(United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization)のことです。今年は、その「世界哲学の日」が来週の 21 日にあたります。そこで、今週と来週の 2 回にわたり、哲学の話をしていただきます。
3. 難しいことばでいうと、哲学とは価値・意味・秩序だと思います。価値つまりものごとの大切さをよく考えて、自分なりに意味付けをし、こういうことをやろう・これはやらないほうがよいのではないかというように自分なりのルールを決めて秩序だった行動をする。この価値・意味・秩序の 3 つが、哲学にとって大事なことだと私は考えます。
4. 放送をお聴きの皆さんも、皆さんなりに哲学とは何かを考え、自分の大切なものに意味付けをし、その上でどのような行動をすればよいかを考えていただきたいと思います。これはもう立派な哲学ですので、ここまで行って「世界哲学の日」を迎えていただければと思います。
5. 「哲学なくしてユネスコなし」ということばどおりに、ユネスコの活動に関係している世界中の方々が「世界哲学の日」に向けて、哲学とは何か・よく生きるとはどのようなことかなどについて考えていると思います。哲学では、生きるとは何か・よく生きるとは何かを考えることも大切ですので、皆さんもぜひ考えてみてください。
6. 哲学を学ぶ上で参考になる本はたくさんあります。ヨーロッパではソクラテス、アリストテレス、プラトンなど高名な哲学者が輩出して活躍しましたので、彼らに関する著作を読むのもよいでしょう。東洋では孔子が有名で、ものごとの本質・よく生きるとは何かについての教えが「論語」の中に示されています。そこで、その一部に触れてみたいと思います。
7. 「論語」は、孔子の言行・孔子と弟子たちとの問答などを、弟子たちが 499 章にまとめたものです。その中に「子曰(しい)わく、吾十有五(われじゅうご)にして学(がく)に志(こころざ)

す。三十(さんじゅう)にして立(た)つ。四十(しじゅう)にして惑(まど)わず。五十(ごじゅう)にして天命(てんめい)を知(し)る。六十(ろくじゅう)にして耳順(みみしたが)う。七十(しちじゅう)にして心(こころ)の欲(ほっ)する所(ところ)に従(したが)えども、矩(のり)を踰(こ)えず。」という文章があります。

これは、「孔子が言った。私は 15 歳で学問に志し、30 歳で思想も見識も確立した。40 歳で心の惑いもなくなり、50 歳で天から与えられた使命を自覚した。60 歳で何を聞いても耳に逆らうことがなくなり、70 歳になると、自分の欲望のままに振舞ってもその行動は道徳から外れることはなかった」という意味です。

8. この教えは孔子自身の経験などにも基づいたものかもしれませんが、こうなるといいねという希望に近い理想の話ではないかとも思います。ですから、70 歳になってもまだ勉強に志していない方は 15 歳に戻って、「吾七十而志于学、七十五而立、八十而不惑、さらに知天命、八十五而耳順、九十而従心所欲、不踰矩(吾七十にして学に志す。七十五にして立つ。八十にして惑わず、さらに天命を知る。八十五にして耳順う。九十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず)」という生き方をするのも素晴らしいと思います。そうすると、70 歳からでも 75 歳からでも 80 歳からでも学問に志すことができます

9. 今日は、毎年 11 月の第 3 木曜日、今年 11 月 21 日の「世界哲学の日」にちなみ、東洋の代表的な思想家である孔子の教えをまとめた「論語」の一節を紹介させていただきました。